

指定管理者制度導入施設の運営状況（令和6年度）

1. 施設名等

施設名	大分県立総合文化センター(iichiko総合文化センター)	所在地 電話番号 ホームページ	大分市高砂町2-33 097-533-4000 https://emo.or.jp/
	大分県立美術館(OPAM)	所在地 電話番号 ホームページ	大分市寿町2-1 097-533-4500 https://www.opam.jp/

2. 指定管理者および県の所管部課（窓口）

指定管理者	名称 所在地 指定期間	公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団 大分市高砂町2-33 令和5年4月1日～令和10年3月31日	県の所管部課 (局・室)	企画振興部芸術文化振興課 TEL：097-506-2058
-------	-------------------	--	-----------------	----------------------------------

3. 施設の概要

設置年月日	平成10年8月1日	※大分県立総合文化センター
設置根拠	大分県立総合文化センターの設置及び管理に関する条例	
設置目的	文化の創造と享受の場を提供することにより、県民の多様な文化活動を促進し、もって個性ある地域づくりと潤いのある生活の創造に寄与する。	
事業内容	①センターの施設及び設備の利用に関すること ②音楽・演劇等芸術文化の鑑賞の機会を提供すること ③文化に関する情報を収集し、及び提供すること ④その他、センターの目的を達成するために必要な事業	
施設内容	・iichikoグランシアタ（大ホール1,966席） ・iichiko音の泉ホール（中ホール 710席） ・iichikoアトリウムプラザ ・リハーサル室・練習室（9室）、映像小ホール、県民ギャラリー、会議室（6室） ・駐車場（295台）	
使用料等	※終日利用の料金 ・iichikoグランシアタ：284,000円～511,100円 ・iichiko音の泉ホール：126,300円～227,400円 ・iichikoアトリウムプラザ：5,250円～41,900円 ・リハーサル室・練習室：3,570円～17,600円、映像小ホール：36,550円、 県民ギャラリー：9,400円～10,800円 ・会議室：13,750円～29,450円 ・駐車場：最初の30分以内 無料、30分を超え1時間以内 200円、1時間を超え30分ごと 100円、 営業時間外（23時～翌朝8時）※出入庫不可 900円	
閉館日	第2・第4月曜日及び年末年始（12月29日～1月3日）	

設置年月日	平成27年4月1日	※大分県立美術館
設置根拠	大分県立美術館設置及び管理に関する条例	
設置目的	芸術文化創造の拠点として、優れた美術作品の鑑賞及び学習機会を提供するとともに、創作活動及び作品発表等の支援を通じて、県民の感性や創造性を高め、文化を核とした地域力を高めるため。	

事業内容	①美術品及び美術に関する資料の収集、保管、展示及び利用に関すること。 ②美術品等に関する調査及び研究に関すること。 ③美術に関する情報の収集及び提供に関すること。 ④美術に関する講演会、講座等を開催すること。 ⑤美術館の施設及び設備の利用に関すること。 ⑥学校及び他の美術館、博物館その他の文化施設等との連携に関すること。 ⑦その他、美術館の目的を達成するために必要な事業。
施設内容	・1階 展示室A アトリウム ミュージアムショップ モバイルカフェ ・2階 アトリエ 研修室 体験学習室 カフェ ・3階 展示室B コレクション展示室 ・屋外駐車場（143台、24時間利用可） 地下駐車場（107台、8時～23時）
使用料等	・観覧料（コレクション展）：200円～300円 ・展示室A：9,420円～37,700円（終日） ・展示室B：9,420円～37,700円（終日） ・アトリウム：4,900円～19,300円（終日） ・研修室：1,200円（1時間） ・アトリエ：1,200円（1時間） ・駐車場：最初の30分以内 無料、30分を超え1時間以内 200円、1時間を超え30分ごと 100円、 営業時間外（23時～翌朝8時）※出入庫不可 900円
閉館日	原則として無休（館内点検等のための臨時休館を除く）

4. 目標指標の達成状況

指標	年度	目標数値	実績	達成率(%)
【県立総合文化センター】 ホール年間利用率(%) ※グランシアタと音の泉ホールの利用率の合計を2で除した数 ※令和5年度はホール利用休止のため目標値設定なし	令和3年度	87.0%	64.0%	73.6%
	令和4年度	87.0%	79.0%	90.8%
	令和5年度	—	—	—
	令和6年度	87%	88.5%	101.7%

指標	年度	目標数値	実績	達成率(%)
【県立総合文化センター】 来場者・利用者満足度(%) ※来場者満足度(鑑賞系)、参加者満足度(普及系)、施設利用者満足度(貸館)の合計を3で除した数 ※令和5年度はホール利用休止のため目標値設定なし	令和3年度	—	—	—
	令和4年度	—	—	—
	令和5年度	—	—	—
	令和6年度	90%	90.1%	100.1%

指標	年度	目標数値	実績	達成率(%)
【県立美術館】 来館者数(人)	令和3年度	500,000	431,357	86.3%
	令和4年度	500,000	521,529	104.3%
	令和5年度	500,000	514,923	103.0%
	令和6年度	500,000	528,258	105.7%

指標	年度	目標数値	実績	達成率(%)
【県立美術館】 来場者・利用者満足度(%) ※来場者満足度(企画展)、来場者満足度(コレクション展)、施設利用者満足度(貸館)の合計を3で除した数	令和3年度	—	—	—
	令和4年度	—	—	—
	令和5年度	90%	94%	104.4%
	令和6年度	90%	95%	105.6%

5. 施設の利用状況
【県立総合文化センター】

利用者数(人)	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	令和3年度	4,951	418	8,430	9,444	5,791	9,293	
	令和4年度	6,345	11,713	12,245	13,235	8,092	16,789	
	令和5年度	0	0	0	0	0	0	
	令和6年度	0	2,645	17,740	15,835	11,705	16,458	
	年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
	令和3年度	17,336	16,091	16,929	4,761	4,473	12,879	110,796
	令和4年度	19,035	21,408	10,212	8,249	16,490	20,030	163,843
	令和5年度	0	0	0	0	0	0	0
	令和6年度	16,574	14,331	13,617	13,325	20,369	15,410	158,009

【県立美術館】

利用者数(人)	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	令和3年度	25,379	22,078	24,119	43,852	61,353	30,817	
	令和4年度	30,405	34,791	21,064	20,901	39,655	24,005	
	令和5年度	21,916	27,656	43,689	59,079	84,130	31,719	
	令和6年度	25,988	35,826	37,314	53,957	78,807	37,526	
	年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
	令和3年度	36,844	32,099	34,598	35,347	33,068	51,803	431,357
	令和4年度	35,324	38,711	92,751	118,170	31,233	34,519	521,529
	令和5年度	35,374	30,731	40,917	47,304	52,412	39,996	514,923
	令和6年度	39,841	40,148	38,843	45,135	49,046	45,827	528,258

6. 利用者満足度調査等の実施状況

利用者満足度調査	実施方法	大分県立総合文化センター ①施設利用者アンケート(令和7年3月実施):669団体(個人を含む)うち249団体回答(回収率37.2%) ②自主公演開催時に公演ごとにアンケートを実施 ③メール(専用アドレス)、電話、FAX、意見箱(館内6か所)による意見の受付 大分県立美術館 ①施設利用者アンケート(令和7年3月実施):75団体うち49団体回答(回収率65.3%) ②施設来館者アンケート(随時):館内3カ所にアンケート用紙を設置し、随時回収
	実施結果	大分県立総合文化センター - 施設利用満足度については、「大変満足」「ほぼ満足」を合わせると88.8%となり、非常に高い評価を得ている。 - 施設を利用する理由として上位にあげられているのが、「立地がよい」「施設・設備が充実」「料金が適正」などである。 - 次回以降の再利用意向は「ぜひ使いたい」「使いたい」を合わせると85.2%であり、非常に高い再利用意向を得ている。 - 職員の対応について、「やや満足」以上が80.0%と高い評価であった。 大分県立美術館 - 施設利用満足度については、「大変満足」「ほぼ満足」を合わせると100%となり、極めて高い評価を得ている。 - 施設を利用する理由として上位にあげられているのが、「立地がよい」「知名度が高い」「施設・設備が充実」「料金が適正」などである。 - 次回以降の再利用意向は「ぜひ使いたい」「使いたい」を合わせると100%であり、極めて高い再利用意向を得ている。 - 職員の対応について、「やや満足」以上が95.7%と、非常に高い評価を得ている。

利用者等からの主な意見・要望・苦情	左の対応状況
(センター)グランシアタ:トイレなどいろいろきれいでよい。ホワイエにもう少しだけ椅子があるとよい。	約2,000席のホールに対し90席と確かに少ないが、物販スペースや避難導線などの関係から椅子を増やすのは難しいため、ご理解いただけるよう丁寧な説明に努めている。
(センター)会議室ラウンジ:夜になったら照明を明るくして欲しい。	音の泉ホールや会議室利用がない日は節電のため照明を少し落としていたが、夜間の練習室利用者が安全に利用できるよう全灯にした。
(センター)アトリウム:催事の際、イスとテーブルを2席程度残しておいてほしい。すべて撤去されると不便。	貸出の際は、各主催者がスペースを自由に使ってよいことになっているが、こういった要望があることは主催者にお伝えするようにした。
(センター)音の泉:おむつ交換台を設置してほしい。	音の泉ホールのトイレにはないが、4F音の泉ホール入口付近の授乳室、4F女子トイレ、多目的トイレに計3台設置している。幼児向けイベント等の際にはアナウンスするようにした。
(センター)B1Fスペースビー:鍵の受け渡しをこの階でやってほしい。	鍵の安全な管理等の観点から4階事務室での受け渡しとしていただくをご理解いただけるよう、丁寧な説明に努めている。
(美術館)館内で子どもたちが遊べる場所がもっと欲しい。	設置していたキッズスペースを1箇所から3箇所に増設。木育おもちゃだけではなく、絵本や塗り絵の設置など展覧会内容によって変化を与え、多くの家族連れにご利用いただいた。
(美術館)アトリウムの積極的な活用を。	県内外からの利用申請に対し利用調整を行うことで積極的な貸出しを行った。また、集客を目的にGWや夏休み、冬休み期間にワークショップやキッチンカー、音楽コンサートやストリートパフォーマンス等、多彩なイベントを開催した。
(美術館)ミュージアムショップで扱っているOPAMグッズが少ない。	ミュージアムショップと連携し、令和7年度の販売を目指し新たなオリジナルグッズの開発に着手した。
(美術館)展示室、館内の椅子を増やして欲しい。	アトリウムのフリースペースに椅子を増設すると共に、展示室内も展示状況に合わせて椅子を設置し、休憩スペースの確保に努めた。
(美術館)展示作品について撮影をOKにしたい。	展覧会ごとに展示作品についての撮影許可交渉を行い、以前より撮影可能な作品も増加。鑑賞者から評価をいただく声もあるが、引き続き交渉を重ね、満足度の高い展覧会開催を目指す。

7. サービス向上に係る主な取組内容

サービス提供体制の強化	① センターと美術館を一体的に管理するスケールメリットを発揮できるよう、総務事務等の一元処理を行うとともに、警備、清掃、設備管理業務等についても共通の専門業者に委託し、クオリティ・コストの両面でレベルの高い一元管理を行った。 ② センター及び美術館のインフォメーション業務を同一業者に委託し連携強化を図り、センターと美術館の情報を共有し相互案内するとともに、美術館で開催される企画展チケットを販売することにより、施設全体のイメージアップと利用者の利便性の向上を図った。 ③ インターネットによる受付とクレジット決済導入を広報・周知し貸館の利便性を向上させた。 ④ 令和6年度からのホール利用再開をインターネット等で発信し、電話かけ等営業活動を行い、利用促進を図った。 ⑤ 大分県芸術文化友の会びびにおいて、ホールの天井耐震改修工事により令和5年4月から令和6年5月の約14カ月間、利用を休止することを考慮し、会員期間を延長するなどの措置を実施した。 ⑥ びび会員限定の動画配信サイト「びびVision」において、芸術文化教養講座や「小林道夫チェンバロリサイタル」などの公演、美術館のイベント動画等を掲載した。 ⑦ びび会員にセンター及び美術館事業についてのアンケートを実施し、センター公演で要望のあったバレエ公演を次年度に計画するなど会員のニーズを反映した。 ⑧ 駐車場については、センターと美術館それぞれの駐車状況に応じて相互利用を前提とした誘導を行った。 ⑨ 美術館において、キッズスペースを拡充し、木育玩具や絵本、塗り絵などを設置し、気軽に訪れることのできる環境づくりに努めた。 ⑩ 貸展示室の施設利用者への便宜供与として、貸出可能施設の空き状況をホームページ等で公開するなど情報提供を行なうとともに、仮押さえされた日程でも予約相談に応じられるよう予約システムの表示を改修し、利用者の拡大に努めた。 ⑪ ミュージアムショップやミュージアムカフェの委託業者と、お客様ニーズの共有や新たなサービスの提供など議論を重ね、展覧会と連動した商品のラインナップの構築や、カフェメニューの開発を行い、サービスの向上を図った。
-------------	---

イベント等の充実(センター)	ホール機能の優位性を活かした芸術性やオリジナリティの高い自主公演の開催と、利用者に親しまれるiichiko総合文化センターづくり ① 県民ニーズを捉えたバランスの良い年間ラインナップの構築 ・令和6年5月中旬のホールリニューアルオープンを記念し子どもから大人まで一緒に楽しめる「ウィーン少年合唱団」、また広い舞台構造を活かし親子で楽しめる歌劇「竹取物語」、そのほかジャズ、歌舞伎、県出身者等による寄席など県民ニーズに応える様々なジャンルの公演を実施した。 ② 地元アーティストや芸術団体等と協働した県内芸術レベルの向上に資する公演制作 ・「おんがくのアーティスト・イン・レジデンス」事業として、県出身で全国的に活躍する若手音楽家たちが、県内で活動する大分の若手音楽家たちと協働して公開リハーサルやアウトリーチを行い、県内の音楽レベルの向上に取り組んだ。 ③ 全国に発信できる公演や地元芸術団体等への支援 ・世界的に評価の高いドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団、英国近衛軍楽隊を招聘し、「第24回別府アルゲリッチ音楽祭」、「日本フィルハーモニー交響楽団九州ツアー」等への共催支援を実施した。 ④ 新たなファン層の拡大に資する普及啓発事業の充実 ・芸術文化の普及、ファン層の拡大を目的として、九州交響楽団によるレクチャーコンサートを開催したほか、初心者も親しめるよう歌舞伎やチェンバロ、オペラの事前レクチャーを実施した。また乳幼児向けのミニコンサートや未就学児がのびのびと楽しめるコンサートを新たに実施し、音楽の楽しさを提供した。そのほか、障がい者の鑑賞をサポートするコンサートを実施するとともに、小中学校や公民館等に出向いてクラシック音楽の魅力を生演奏で提供するアウトリーチ活動を展開した。
イベント等の充実(美術館)	県民に親しまれる大分ならではの特色ある美術館づくり ① 「出会い」をテーマにした新たな視点に基づく県民ニーズを捉えた展覧会の開催・誘致 ・幅広いジャンルからバランスよく7つの展覧会を企画・開催した。 ・自主企画展として、4～5月に五感を駆使してものづくりの楽しさを発見する「つくる展－TASKOファクトリーのひらめきをかたちにする－」を開催。 5～7月は日本美術の伝統を受け継ぎながら新たな日本画の世界を切り開いた福田平八郎の足跡をたどる「没後50年 福田平八郎」を開催。7～8月は夏休みの家族向け企画として、不思議に満ちた虫の世界を紹介する「養老孟司と小増山賢二『虫展』～みて、かんじて、そしてかんがえよう」を開催し、さらに、葛飾北斎と歌川広重という風景画の巨匠二人の挑戦を紹介する「江戸東京博物館コレクションより 北斎と広重 富嶽三十六景への挑戦」も展開した。 11～1月は、ダリの生誕120周年の節目に諸橋近代美術館の所蔵品を中心に天才画家ダリの生涯を振り返る「生誕120周年 サルバドール・ダリ－天才の秘密－」、12～1月の日本ではじめて竹芸の人間国宝に認定された生野祥雲斎の功績をたどる「生誕120年・没後50年 生野祥雲斎展」を、2月からは大分出身の絵本作家／美術家ザ・キャビンカンパニーがユニット結成以来手がけてきた創作活動の全貌を紹介する「ザ・キャビンカンパニー大絵本美術展<童堂賛歌>」を開催した。 ② 大分の伝統と文化や、所蔵品の新たな魅力を紹介するコレクション展の開催とその展開 - i 所蔵作品の展示 ・2か月ごとのテーマ展示で所蔵作品の多彩な魅力を引き出すコレクション展を5回開催。4～6月「アートと遊び心」、6～9月「水の情景－生々流転」、9～11月「かわいい日本美術」、11～1月「心のイメージ」、1～3月「花が咲くころ」など、多様な視点をとり入れた。 - また、「全国豊かな海づくり大会2025」に合わせた海に関する特集展示や、「生野祥雲斎展」と連携した「大分竹工芸名品展－此君礼賛－」を実施し、幅広い層の関心を集めた。 - ii 所蔵作品の管理 ・県の所蔵作品を財産台帳及び情報システムのデータベースにより適正に管理し、展示・保存環境維持のため、収蔵庫、展示室等の空調管理、記録を徹底。地震・火災対策として、免震装置や防火シャッター等の定期点検を実施し、万全な安全対策を講じた。 - iii 美術品収集 ・県が進める美術品収集事業について、専門的な観点から必要な調査等を連携して実施した。(令和6年度実績:購入2点、寄贈2点、寄託45点)。 - iv 美術品の調査及び研究 ・美術・工芸、保存修復、教育普及等に関する調査研究を県と連携して実施。その成果を収集活動やコレクション展の企画に活用するとともに、職員の資質向上に繋げた。加えて「年報」「紀要」の編集や各種展覧会図録の編集に取り組んだ。 ③ 美術鑑賞の機会を提供するための地域巡回展の実施 ・4月～6月に宇佐市にある大分県立歴史博物館を会場として、収蔵品の中から県北出身作家を中心とした美術品を特集した「地域美術館 博物館で美の探検－大分県立美術館コレクション－」を開催。計51点の作品を展示し、2,411名が来場した。 - また、関連事業として宇佐市内の小学生を対象に鑑賞会プログラム「地域美術館体験講座」を開催し、市内24校が参加した。

④	アトリウムやカフェ・ミュージアムショップを中心とした、多様な価値観を提示する交流拠点としての取組を推進
	i アトリウム等の活用
	・ゴールデンウィーク・夏休み・冬休みの期間中を中心に、家族連れの来館者増加を図るため、多彩なイベントを随時開催した。
	・キッズコーナーについては、アトリウム内3箇所にスペースを拡充し、木育玩具や絵本、塗り絵などを設置し、気軽に訪れることのできる環境づくりに努めた。
ii	情報コーナー
	・美術関連の図書や情報等を紹介する情報コーナーでは、企画展の内容に応じ定期的に書籍の入れ替え、4,000冊の蔵書を有効活用した。
iii	ミュージアムショップ
	・日本連合警備株式会社(ミュージアムショップ屋号:PortoPorta)へ委託し、展覧会と連動した商品のラインナップを充実させ、キャッシュレス対応やECサイト運営、無人精算機を活用した満足度の高いサービスを提供した。
	・開館10周年を見据え収蔵品をモチーフにしたオリジナルグッズの開発に着手。第一弾として収蔵品をパッケージにしたオリジナルミネラルウォーターの販売予定。
iv	ミュージアムカフェ
	・社会福祉法人博愛会(café Charité)に委託し、県産農林水産物を積極的に使用した高品質なメニューの提供や、企画展や季節に合わせた新規メニューの開発を行い、サービス向上を図った。
	・団体利用向けのパーティープラン作成やキャッシュレス決済対応等を進め、お客さまニーズに答える運営を実施した。

8. 管理に係る収支の状況

(単位：千円)

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
収入額(A)		760,512	788,714	737,702	871,488
内訳	県からの委託料	457,272	515,838	606,104	600,701
	利用料金	213,710	258,284	125,485	265,609
	雑収入	89,530	14,592	6,113	5,178
支出額(B)		761,819	807,642	684,994	873,083
内訳	人件費	195,938	209,113	189,153	229,617
	維持管理費	2,341	2,014	2,825	1,573
	事業費	537,996	571,071	492,620	616,349
	iichikoパートナーシップ履行事業費	24,444	24,344	0	24,444
	サービス改善提案事業費	1,100	1,100	396	1,100
収支差額(A－B)		-1,307	-18,928	52,708	-1,595

9. 施設使用料等の収入状況

【県立総合文化センター】

利用料金(千円)	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	令和3年度	19,905	8,405	9,845	13,412	18,110	15,579	
	令和4年度	24,317	15,852	17,205	21,098	14,464	19,058	
	令和5年度	8,786	7,169	7,306	8,649	7,227	8,310	
	令和6年度	25,747	12,042	16,664	20,183	16,111	17,484	
	年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
	令和3年度	13,983	18,129	16,907	10,875	4,794	15,250	165,194
	令和4年度	21,697	18,817	17,228	14,047	10,627	17,472	211,882
	令和5年度	6,434	6,785	5,423	6,137	4,214	7,407	83,847
	令和6年度	18,254	23,029	19,119	12,341	14,543	14,906	210,423

【県立美術館】

利用料金(千円)	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	令和3年度	5,890	800	3,081	5,034	2,683	1,494	
	令和4年度	4,924	2,330	4,076	1,067	2,014	1,799	
	令和5年度	4,188	1,884	3,857	1,668	2,122	5,911	
	令和6年度	5,164	1,662	3,293	3,502	8,292	2,816	
	年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
	令和3年度	5,588	2,202	2,948	2,156	2,252	14,388	48,516
	令和4年度	7,072	1,998	3,764	3,237	8,274	5,846	46,401
	令和5年度	6,101	2,257	2,395	1,836	2,009	7,409	41,637
	令和6年度	6,375	2,498	3,342	3,013	8,998	6,234	55,189

10. 指定管理者の管理体制

施設管理体制	令和6年度(公財)大分県芸術文化スポーツ振興財団組織図 令和6年4月1日現在							
	職員数 (R6.4.1)	正規職員	パート	嘱託	県から派遣	契約職員	その他	合計
		12			10	26	2	50

11. 適正な管理運営に係る主な取組内容

職員の資質・能力の向上	① 財団主催の研修会のほか、外部で開催されるものも含めた各種研修会を活用することにより各職員の職務職責に応じた能力を養成した。 ② 「職員面談」や「能力評価」「業績評価」を実施して職員の努力や成果を反映することで職員の士気向上を図った。 ③ 各所属における業務内容を精査した上で、「職員面談」や「能力評価」「業績評価」により、職員の適正配置や効率的な組織づくりに努めた。 ④ 衛生委員会を定期的に開催するとともに、職員の定期健康診断を実施した。 ⑤ 「働き方改革」に対応した労働環境の整備として「出退勤管理システム」を活用して、超勤の抑制及び有給休暇の取得推進に努めた。 ⑥ 県の規程改定に準じて、財団規程の改定を実施し、正規職員及び契約職員の給料及び手当を改定する処遇改善を行った。
防災に関する研修・訓練	① 図上訓練や新人職員研修を行うとともに、職員以外の委託業者等関係者も参加し、実態に即した防災訓練を実施している。また、センターでは複合施設管理者による合同訓練も実施した。 ② 火災や台風などの自然災害をはじめ、不審者(物)、感染症など、様々なリスクに迅速かつ的確に対応するため、危機管理体制を整えとともに、日頃から危機管理意識を高められるよう職員に対する研修を行った。 ③ 大分市消防局救急隊を招いて、総合文化センター、美術館職員、ボランティア等が参加した合同救急救命講習を実施した。 ④ センターでは天井耐震改修工事や付加工事における月次の定例会議において、安全管理徹底への注意喚起をすると共に、建物外構部における通行人への配慮や安全確保などが計画通り実施されているか巡回を徹底した。

安全対策等	【県立総合文化センター】 ① 令和6年度5月までホールの天井耐震改修工事を実施し、それに併せて老朽化したホワイエカーペットの貼り換えなどの付加工事を実施した。 ② 天井耐震改修工事や付加工事における月次の定例会議において、安全管理徹底への注意喚起をすると共に、建物外構部における通行人への配慮や練習室通路における利用者への安全確保などが計画通り実施されているか巡回を徹底した。 ③ 備品台帳により備品を適切に管理したほか、ピアノのオーバーホールを行った。 ④ 植栽等の維持管理業務については、ホール、アトリウムに配置した自然木への灌水、施肥、剪定、枯葉撤去等を行い、適正に管理した。 ⑤ 清掃業務については、施設利用の快適さと美観の保全のため専門業者による清掃を日常的に行った。 ⑥ 保安警備業務については、防災センターを中心とした保安体制により、施設内の秩序を維持し、利用者の安全を守った。 【県立美術館】 ① 的確な保守点検により施設、設備の正常な性能を維持するとともに、県との連携により、不具合箇所の確認を継続して行い、安定した展示環境、収蔵環境の確保に努めた。 ② 備品については、備品台帳により、適切に管理した。 ③ 植栽等の維持管理業務については、美術館の美観維持のため、定期的な植栽等の管理を行った。 ④ 清掃業務については、美術館としての快適な空間、適切な収蔵環境や展示環境を保つため、高い仕様の清掃業務を行うほか、総合的有害生物管理(IPM=Integrated Pest Management)により、生物的防除、化学的防除、物理的防除等を徹底した。特に、美術館管理を行う上で関係者全員の意識統一が必要となるIPMについては、財団だけではなく、警備等の委託業者も含めて一体的な研修を実施した。 ⑤ 保安警備業務については、夜間の機械警備に加え、24時間常駐の警備員を配置することで、徹底した警備体制を整え、事故、盗難等を未然に防いだ。
-------	--